

授業改善に向けた教育センターの支援の在り方（2年次）

～「管理職による授業観察リーフレット」の作成～

島根県教育センター

企画・研修スタッフ 共同研究

目次

I	問題の所在	1
II	研究の目的	2
III	研究の方法	2
IV	研究の内容	2
	1 授業観察についての管理職への聞き取りから	2
	2 新任管理職研修における「授業観察チェックリスト」作成の演習から	3
	3 他県の「授業観察の視点」から	6
	4 授業観察における視点の例示	7
V	研究のまとめ	10
	【参考文献】	11

【研究の概要】

個々の教員が主体的に授業改善をしていくことが重要であり、そのことを支えるための管理職による適切な指導・助言に関する調査研究である。本研究以外に企画・研修スタッフ共同研究として、「『授業づくり研修』での省察を授業改善につなげるために」と「『授業づくりの研修』の効果を上げる『授業づくりハンドブック』の作成」を実施している。この2つの研究と連動して、授業改善を支えるものとして各校での管理職による授業観察の一助となる「授業観察のチェックリスト」を例示するとともに、「管理職による授業観察リーフレット」を作成した。

【キーワード】

授業力 授業改善 省察 授業観察の視点 授業観察チェックリスト

※関連研究 「授業改善に向けた教育センターの支援の在り方（2年次）」

① 「授業づくりの研修」での省察を授業改善につなげるために

② 「授業づくりの研修」の効果を上げる『授業づくりの研修ハンドブック』の作成

授業改善に向けた教育センターの支援の在り方（2年次） ～「管理職による授業観察リーフレット」の作成～

島根県教育センター

企画・研修スタッフ共同研究

I 問題の所在

児童・生徒の学力向上のためには、教員が主体的に自らの授業改善を心がけていくことがとても重要である。そのために、授業力の向上に係る島根県教育センター研修をさらに充実・改善していくことが必要である。

授業力の向上を目指して授業改善していくには、自分自身の授業を省察することが大切である。省察をすることによって、感覚的な授業改善ではなく、課題解決や授業力向上のための明確な目標設定と具体策を講ずることが可能になる。

教員個々の自己省察を深めていく上で、管理職からの指導・助言が大きな役割を果たしている。ゆえに、管理職の授業観察力の向上が、きわめて重要である。については、次の2点を問題の所在と考える。

1点目は、管理職に授業を観察する力が十分でないと、どうしても当たり障りのない指導や助言になりがちで、少しでも自分の授業をよくしたいという向上心のある教員を満足させるものになりやすく、授業改善につながりにくかったこと。

2点目は、管理職による授業観察の視点は各校の実態に応じて異なってくるため、授業観察の視点のスタンダードが存在せず、授業改善を継続的に意識させていくために必要な授業を観察する時の視点が確立しにくかったこと。

こうした状況に対して、教育センターが管理職による授業観察への一助となるリーフレットを作成していくことは、管理職の授業観察力と指導・助言する力の向上及び教員個々の授業力向上につながると考えた。

【教職員評価の動きから】

島根県教育委員会では平成18年3月に教職員の評価システムについての「評価システム実施の手引き」を作成し、新たな教職員の評価制度がスタートした。この評価制度では、教職員の資質能力の向上・職務に対する意欲の向上・学校組織の活性化を図り、活力ある学校づくりの推進につなげていくことをねらっている。この動きに伴い、近年、教員評価のために管理職による授業観察の機会が増加している。すべての教員に、年1回は公開授業等を義務づけている学校も増えてきている。

【学力向上に係る県の課題より】

島根県の児童生徒については、「平成25年度 全国学力・学習状況調査 島根県（公立）の結果概要」（義務教育課）などの様々な調査結果から、「学ぶ意欲」、「知識及び技能を活用する力」、そして「家庭での学習習慣の定着」に課題があることが分かった。これらのことから、「第3期しまね学力向上プロジェクト(平成24～26年度)」に掲げる「やり抜く力、学び合う力、考える力」を育てていくための授業改善は急務である。教員一人一人が授業改善をしていく力を付けることで、学校全体の教育力が向上し、一人一人の児童生徒の力を付けていくことになる。

【教員の年齢構成の変化等と授業改善の必要性】

平成24年8月の中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」においては、これまで教員の力を育ててきた学校の機能が、教員の大量退職や学校の小規模化、学校現場の多忙化などにより弱まってきているとの指摘がある。島根県も今後、10年間に経験のある教員の大量退職を迎える。ミドルリーダーや若手教員が主体的に自己の授業改善をしていくこと、そのために管理職が適確な指導・助言をしていくことが、教員の資質能力の向上を図る上で重要になってきている。

II 研究の目的

教員自身が主体的に授業改善を図るために、管理職による授業観察後の指導・助言を充実させる。そのために、授業観察の視点をまとめ、授業改善の一助とする。

III 研究の方法

- 県内の校長への聞き取りから、授業観察の実態を調査する。
- 小・中学校新任管理職研修において、「授業観察チェックリスト」作成の演習を実施し、管理職の願いや思いを調査する。
- 他県の「授業観察の際の視点」について調査する。
- 授業観察における視pointsの例示を示し、「管理職による授業観察リーフレット」を作成する。
※ホームページに「授業観察の視点」の例示を掲載

IV 研究の内容

1 授業観察についての管理職への聞き取りから

管理職に聞き取りをした結果は、表Iのとおりである。管理職が授業観察をする際には、目に見えやすい指導技術の部分だけでなく、根底にある「情熱・使命感」に大きな比重が置かれていることが多かった。管理職にとって、教師と児童生徒との関係や平素からの学級づくりが「授業力」に直結しているとの認識が強かった。学習規律や最低限の指導技術に着目している管理職もいるが、教職員評価システムとの関連もあり、多くの管理職はもっと根本の部分（情熱・使命感や生徒理解力）で教員の力量を見極めたいとの思いがうかがえる。

表I：管理職への聞き取り

<小学校>

「情熱・使命感」「指導力・統率力」は教師の大前提であり、すべての授業の基盤である。その上に「構想力」や「生徒理解力」が成立する。

授業のねらいの焦点化が大切。児童にとって本当に必要感があるのか。「生徒理解」を基盤にしたときにしっかりと授業構想ができる。

「授業の中に不自然さがないか」を見ている。ねらいや児童の実態から外れていると、無理

<p>な面や不自然な面が表れる。ねらいをしっかりとち、目の前の児童を見取っている教員は、安定して授業ができる。</p>
<p>授業観察シートを作成している。①学習の課題や見通しをもっているか②授業に意欲的に参加したか③教師の発問・提示の仕方・学習の流れは子どもに分かりやすく有効であるか④ねらいに向けた有効な活動の場が保障されているか⑤話し合い・対話は保障されているか⑥教材や教具は子どもの理解や思考を支えるものか⑦子どもの変容が見られたか</p>
<p><中学校></p> <p>テクニックよりも、教員の思いや温度（情熱・使命感）を重視している。教科を超えた視点である「集団づくり」で授業を見る。子どもを変えていくための研究の視点が大事。</p> <p>学級担任・教科担任として、子どもとの人間関係・信頼関係ができてきているかを見る。「生徒理解力」の視点を重視している。落ち着いて子どもが授業に取り組んでいるか「指導力・統率力」の視点も重視している。</p> <p>授業における集団づくり・仲間づくりの視点で授業を見る。授業のねらい・展開・評価がマッチしているか、評価規準がきちんと認識され授業の中で教師が評価を意識しているかが大切。</p> <p>生徒の心に火をつける魅力ある教師として生徒と向き合っているか。①教師と生徒との人間関係（受容・共感的な人間関係）②教材の工夫（生徒にとって魅力ある教材か）③授業の展開（発問・教材提示が適切か）1時間の授業より単元構想こそが大切。</p> <p>「言語活動の充実」に視点を置いて全教職員で一つの方向に向かうようにしている。「生徒理解力」と「指導力・統率力」が教員の力量が一番問われる。</p>
<p><高等学校・特別支援学校></p> <p>各教科の10の視点を校内で設定し、それをもって授業を見て「よい点」を記録し感想を授業者に渡している。授業者はそのプリントを踏まえて「振り返りプリント」を作成する。管理職はそれぞれのプリントを確認している。</p> <p>子どもたちが学習内容に満足しているかどうかを重視している。</p> <p>導入・振り返り・子どもへの接し方を見ている。教員自身が元気かどうかといった様子も見ている。</p>

2 新任管理職研修における「授業観察チェックリスト」作成の演習から

島根県教育センターでは、平成24年度より小・中学校管理職研修を大幅に改善した。小・中学校新任校長研修及び新任教頭研修において「管理職の授業観察力について」の研修を実施し、管理職自身が授業観察をするために、島根県教育センターが研修で利用している「授業力の4つの構成要素^{*1}」を用いてチェックリストを作成する演習を実施した。現在、自校でどのような点を重視して授業観察を行っているのか。また、今後大切にしたい授業観察の視点は何かを3～4人程度の小グループで意見交換を行った。

^{*1}授業力の4つの構成要素：平成24年度島根県教育センター研究紀要『授業改善に向けた教育センターの支援の在り方（1年次）』p6～7「島根県教育センター研修における「授業力」客観的指標の作成」より

使命感	・一人一人の児童生徒を見ているか。どの子にも分かる授業を心がけているか。	2
	・明るさ、さわやかさ、元気の良さ、謙虚さが見られるか。	2
	・授業に「ここを工夫した」、「ここを見てほしい」という提案性があるか。	2
構 想 力	・単元のねらいが明確であり、本時のねらいが提示されているか。	6
	・導入の工夫、授業形態(個、ペア、グループ)、振り返りの時間等授業の流れが意図的に組み立てられているか。また、授業のまとめや振り返りができているか。	5
	・思考表現する場面が意図的に設けられているか。子どもが主となっているか。	3
	・ねらいの達成のための教材・教具を準備し活用しているか。	3
	・板書に計画性があり、児童生徒の思考に沿って構造的になっているか。	3
	・学習の流れが子どもに提示されているか。	2
	・子どもの意識の流れを考え、発言等を生かす柔軟性があるか。	2
	・端的で分かりやすく学習のねらいに迫るシンプルな発問になっているか。	2
	・評価規準が明確になっているか。	2
生 徒 理 解 力	・個の課題に応じた支援がなされているか。支援を要する子を意識した準備や声かけができているか。	6
	・子どもの変化への気づき(つぶやき、表情、動き)や見取りができているか。	5
	・集団への指導と個への指導を区別しているか。	3
	・児童生徒の興味関心や実態を把握して授業をしているか。	2
	・子どもに対し肯定的な関わりをし、自己肯定感を高める評価言を与えているか。	2
指 導 力 ・ 統 率 力	・学び合いの確保など、ねらいを達成するための学習形態となっているか。	6
	・学習ルールの確立など、学習規律がきちんとできているか。	6
	・児童生徒が考える時間の確保と、子ども同士をつなぐ工夫があるか。	3
	・発問や教師の説明は分かりやすいか。	2
	・ICT機器を活用しながら授業を進めているか。	2
	・ねらいに迫るための板書や時間配分となっているか。	2
そ の 他	・学習の足跡の掲示ができているか。	2
	・教室環境の整備ができているか。	2

表Ⅲ－２：小・中学校新任教頭研修における授業観察のチェックリスト		
※１．具体例については、作成者表現等を変えてある。		
※２．「グループ数」は、１３グループ中、複数のグループからあがった数である。		
構成要素	具 体 例	グループ数
情 熱 ・	・表情豊かで明るい雰囲気をつくり生き生きと子どもに対応しているか。	6
	・助言を求めたり生かしたりするなど、他の教員とのコミュニケーションが図れているか。	5
	・教材研究が十分になされているか。	4
	・提案性のある授業になっているか。	3

使命感	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する新しい情報を得ようとしているか。 ・自己課題を意識した授業になっているか。授業改善をしようとしているか。 ・授業が遅れずにスタートしているか。時間が守れているか。 	2 2 2
構想力	<ul style="list-style-type: none"> ・目標(ねらい)にあった展開になっているか。学習の流れが提示されているか。 ・子どもにつけさせたい力が明確で、子どもにあった目標が設定されているか。 ・教材研究が十分できており、教材や教具の準備ができていますか。 ・計画的な板書ができていますか。 ・振り返りの場面が設定されているか。 ・説明ばかりでなく、子どもの「動き」や「話し合いの場」が保障されているか。 ・指導と評価が計画的に行われているか。 ・教育目標を踏まえた授業づくりができていますか。 ・子どもの学びを生む発問になっているか。 ・系統性や他教科との関連を意識しているか。 	12 8 5 4 4 4 3 2 2 2
生徒理解力	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階や特性などを踏まえ、一人一人に応じた働きかけや指導がなされているか。 ・自己肯定感が高まるように、評価言が有効に働いているか。 ・児童生徒の発言や行動に対して、温かな対応・支援ができていますか。 ・児童生徒の意欲が高まるような学びの形態の工夫があり、話し合う場が保障されているか。 ・安心して発言できる雰囲気や関係ができていますか。 ・子どもの発言やつぶやきを大切に扱っているか。 	10 4 3 3 2 2
指導力・統率力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のルールづくりなど学習規律が確立しているか。 ・子どもの興味関心を高めるような話し方・声の大きさを説明できているか。 ・学び合いができる時間の確保や学習形態の工夫ができていますか。 ・分かりやすく計画的な板書になっているか。 ・認め合い支え合う学級の雰囲気づくりができていますか。 ・ICT機器の利用など分かりやすい授業の工夫があるか。 ・発問が適切で、順序立てられているか。 ・ノート指導ができていますか。 	10 6 6 5 4 3 2 2
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて学習に向かえる教室環境になっているか。学習の足跡の掲示などがきちんとしてあるか。 	6

3 他県の「授業観察の視点」から

他県の研修で使用されている「授業力自己診断シート」や「授業力振り返りシート」、「授業観察シート」等を調査した。他県で作成している「授業観察シート」は管理職のために作成されたものは少なく、教員同士がお互いに授業を観察し助言し合うことをねらって作成されたものが多い。

秋田県総合教育センターでは、各教科ごとの「授業改善のための観点」が明示され、本年度の重点も記載され、その重点に授業でどれだけ迫ろうとしているのかを問うようになっている。高

知県では授業観察の視点を「授業で大事にする5つのポイント^{*2}」として示し視点の絞り込みをしている。また、奈良県立教育研究所では「授業診断シート」を活用して授業後の指導・助言を行っている例もある。

新潟県上越市教育委員会では、17類型（教材研究、学習環境、教材・教具、授業規律、学習形態、話し方、指示、説明、教師活動、課題、発問、指名、発言、学習活動、板書、評価、宿題）、88項目のリストから、自己目標との関係で取捨選択し、自校化や自己化を図り、具体的な指標を設定し、「授業改善基本チェックリスト」を作成^{*3}している。

埼玉県立総合教育センターでは、『学力向上BOOKLET 授業力自己診断シートで授業力の向上を！^{*4}』の中で、授業力の4つの要素を「授業力を支える学習集団を形成する力」「児童生徒を理解する力」「教材を解釈し授業を構想する力」「授業を実践する力」と規定している。そして、『授業力』自己診断シートを教師自身が自己の授業力を振り返り見直すためのツールとして活用している。また、「管理職研修授業力向上プログラム」の一環として、授業記録ビデオを視聴し授業観察演習を実施し、その中で『授業力』自己診断シートの活用事例が示され、人事評価シートと授業力自己診断シートを連動させた評価と指導・助言ができるようにしている。管理職が記録した授業力自己診断シートをもとに授業後に協議が行われ、教師の主体性や実践への意欲へつながる工夫がなされている。また、管理職による授業観察を教師に返していくための「授業観察フィードバックシート」も示され、授業観察の視点とともに管理職からのコメントの例示が記載されている。

各県の実態を調査してみると、管理職の研修として「授業観察と授業力の改善」を結びつけていたり、個々の教師が自分の授業改善のためにシートを作成したりしていることが分かった。しかし、調査した範囲では、「管理職のための授業観察のチェックリスト」を県がスタンダードの形で作成しているものではなく、他県の教育センターによっては、授業観察の具体的なワークシート等を使ってしまうとそれがゴールになってしまい、各校の実態に応じた授業観察にならず活用しにくいという意見もあった。

各校の学校教育目標や学校全体で取り組んでいる研究の視点を反映した授業観察でなければ、授業改善につながるものが難しく、管理職と所属教職員の信頼関係を深めることにもつながらない。ゆえに、学校や教職員、児童生徒の実態に応じて独自の「授業観察のチェック項目」を設定することが望ましい。

4 授業観察における視点の例示

表IV「授業観察のチェックリスト（例）」は、各校の管理職が独自の授業観察の視点をもつための一助として作成した。これは、前述した島根県教育センターが研修で利用している「授業力の4つの要素」から授業観察のチェック項目を整理したものである。

*2授業で大事にする5つのポイント：この5つのポイントを示したチェックシートは、高知県西部教育事務所で平成22年に作成されたもので、高知県教育委員会として統一したシートではない。

*3「授業改善基本チェックリスト」を作成：村山信一「小学校における授業観察の特色と工夫」（工藤文三編『改訂 校長・教頭の授業観察・面接ハンドブック』2008教育開発研究所）p110-p112）

*4『学力向上BOOKLET「授業力自己診断シート」で授業力の向上を！』：平成25年3月埼玉県立総合教育センター作成。

表IV		授業観察のチェックリスト（例）	
授業者名		観察者名	
日 時		教科・領域	
〔情熱・使命感〕 児童生徒等のよりよい成長を願って、周囲と協働しながら自らの資質向上を図っていく姿勢	<input type="checkbox"/> 明るく快活に児童生徒に接している。 <input type="checkbox"/> 言葉遣い、身だしなみ、時間を守るなどのマナーがきちんとしている。 <input type="checkbox"/> 同僚に相談したり、上司に助言を求めたりしている。 <input type="checkbox"/> 常に教材研究を行い、授業を改善しようとしている。 <input type="checkbox"/> 自己課題を意識した授業をしている。 <input type="checkbox"/> 教育に関する新しい情報を得ようとしている。		
〔構想力〕 学習のねらいを明確にするとともに教材を研究し、見通しをもって授業を計画・創造、改善していく力	<input type="checkbox"/> 学習指導要領に基づいた授業を実践している。 <input type="checkbox"/> 単元のねらいが明確であり、本時のねらいを提示している。 <input type="checkbox"/> 指導と評価が計画的に行われている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の実態に合った具体的な学習内容が設定されている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒が思考・表現する場を保障している。 <input type="checkbox"/> 授業形態（個人・ペア・グループ）の工夫をしている。 <input type="checkbox"/> 授業のまとめや振り返りをしている。		
〔生徒理解力〕 集団の中で個の可能性を引き出すために、児童生徒等一人一人の実態・特性を理解する力	<input type="checkbox"/> 一人一人の発達段階や特性に応じた指導がなされている。 <input type="checkbox"/> クラスの実態・特性を理解し、集団への指導と個への指導を区別している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の学習意欲の向上のために、一人一人の変容（つぶやき・表情・動き）を捉えている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発言や行動を大切にとらえ、自己肯定感が高まるような支援が行われている。		
〔指導力・統率力〕 学び合う集団づくりに努め、専門的な指導技術をもとに学習のねらいの達成に向けて授業を実践する力	<input type="checkbox"/> 学習規律が確立し、安心して児童生徒が授業に参加している。 <input type="checkbox"/> 豊かな表情、分かりやすい話し方等で児童生徒の興味関心を惹きつけている。 <input type="checkbox"/> 学習を深めるための教材教具が準備されている。 <input type="checkbox"/> ねらいに沿った発問が計画的に行われている。 <input type="checkbox"/> 分かりやすく計画的な板書をしている。 <input type="checkbox"/> ノート・発言・机間指導などから一人一人の良さや優れたところ、伸びを積極的に評価している。		
〔その他〕 上記の構成要素にあてはまりにくいもの	<input type="checkbox"/> 学習にふさわしい教室環境が整備されている。 <input type="checkbox"/> ICTの有効的な活用がなされている。 <input type="checkbox"/> 教職員評価システムにおける「自己目標評価シート*5（学習指導の自己目標・目標達成のための手立て）」を意識している。		

※ゴシック体のチェック項目は、教育センターにおける研修で大切にしている視点

*5教職員評価システムにおける「自己目標評価シート」：平成18年3月島根県教育委員会「評価システム実施の手引き（評価者用）」p98参照

この「授業観察のチェックリスト（例）」はあくまで例示であり、これをもって授業観察のチェック項目のスタンダードとするものではない。授業者の教職経験年数や学校における役割によってチェック項目は変化する。また、学校や地域、児童生徒の実態によっても、それぞれの学校教育目標や研究主題によっても、チェック項目は変化する。したがって、授業者それぞれによってチェック項目が作成され、授業改善に役立てていくことが最も効果的である。

次に示す表V「授業観察シート（例）」は、表IV「授業観察のチェックリスト（例）」を参考にして作成したものである。このシートは、各校において管理職が作成することが望まれる。

表V 授 業 観 察 シ ー ト【例】									
平成〇年〇月〇日（〇）〇時間目 5年A組 教科：算数									
授業前に、管理職と授業者とで話し合った内容を記入する。									
【本時の授業で大切にしたい点】									
① 図形学習における作業的・体験的な活動を取り入れ、図形に対する興味・関心を高める。 ・「図形カード遊び」（自作教材）を通して、図形の移動や回転、重ね合わせる活動を重視する。 ② 既習の学習事項の定着と、合同な図形の意味について理解させる。 ・既習の図形の性質を確認しながら、作った図形の中から「合同な図形」を見つける。									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業観察の視点</th> <th>管理職からのコメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input type="checkbox"/> 同僚に相談したり、上司に助言を求めたりするなど他の教員との連携がとれている。 <input type="checkbox"/> 明るく、元気よく子どもたちに接している。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自作の図形カードの活用の仕方など、他の教員に相談し、よりよい授業にしようとする姿勢は素晴らしい。 ・カード遊びを楽しもうとするムードづくりがよい。 </td> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/> 単元のねらいが明確であり、本時のねらいを提示している。 <input type="checkbox"/> 児童が考えたり、発表したりする場を設けている。 <input type="checkbox"/> 授業のまとめや振り返りをしている。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな図形カード遊びなのか、学習のねらいとつなげて提示されている。 ・図形カードを様々に操作し、重なる図形を作る試行錯誤の時間が保障されていた。 ・本時の作業的活動と合同な図形の意味を結びつけ、簡潔にまとめていた。 </td> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/> 支援を要する児童を意識した準備や声かけができています。 <input type="checkbox"/> 一人一人の変容（つぶやき・表情・動き）を捉えている。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・本時はグループでの操作活動が中心で、子ども同士は深く関わっていたが、次時では小テストを実施するなど個々の学習の定着にも気を配るとよい。 ・図形の移動や回転、重なりに注目しているつぶやきを大切にしていた。活動に興味を示さ </td> </tr> </tbody> </table>	授業観察の視点	管理職からのコメント	<input type="checkbox"/> 同僚に相談したり、上司に助言を求めたりするなど他の教員との連携がとれている。 <input type="checkbox"/> 明るく、元気よく子どもたちに接している。	<ul style="list-style-type: none"> ・自作の図形カードの活用の仕方など、他の教員に相談し、よりよい授業にしようとする姿勢は素晴らしい。 ・カード遊びを楽しもうとするムードづくりがよい。 	<input type="checkbox"/> 単元のねらいが明確であり、本時のねらいを提示している。 <input type="checkbox"/> 児童が考えたり、発表したりする場を設けている。 <input type="checkbox"/> 授業のまとめや振り返りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな図形カード遊びなのか、学習のねらいとつなげて提示されている。 ・図形カードを様々に操作し、重なる図形を作る試行錯誤の時間が保障されていた。 ・本時の作業的活動と合同な図形の意味を結びつけ、簡潔にまとめていた。 	<input type="checkbox"/> 支援を要する児童を意識した準備や声かけができています。 <input type="checkbox"/> 一人一人の変容（つぶやき・表情・動き）を捉えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時はグループでの操作活動が中心で、子ども同士は深く関わっていたが、次時では小テストを実施するなど個々の学習の定着にも気を配るとよい。 ・図形の移動や回転、重なりに注目しているつぶやきを大切にしていた。活動に興味を示さ
授業観察の視点	管理職からのコメント								
<input type="checkbox"/> 同僚に相談したり、上司に助言を求めたりするなど他の教員との連携がとれている。 <input type="checkbox"/> 明るく、元気よく子どもたちに接している。	<ul style="list-style-type: none"> ・自作の図形カードの活用の仕方など、他の教員に相談し、よりよい授業にしようとする姿勢は素晴らしい。 ・カード遊びを楽しもうとするムードづくりがよい。 								
<input type="checkbox"/> 単元のねらいが明確であり、本時のねらいを提示している。 <input type="checkbox"/> 児童が考えたり、発表したりする場を設けている。 <input type="checkbox"/> 授業のまとめや振り返りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな図形カード遊びなのか、学習のねらいとつなげて提示されている。 ・図形カードを様々に操作し、重なる図形を作る試行錯誤の時間が保障されていた。 ・本時の作業的活動と合同な図形の意味を結びつけ、簡潔にまとめていた。 								
<input type="checkbox"/> 支援を要する児童を意識した準備や声かけができています。 <input type="checkbox"/> 一人一人の変容（つぶやき・表情・動き）を捉えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時はグループでの操作活動が中心で、子ども同士は深く関わっていたが、次時では小テストを実施するなど個々の学習の定着にも気を配るとよい。 ・図形の移動や回転、重なりに注目しているつぶやきを大切にしていた。活動に興味を示さ 								
情報・使命感									
構想力									
生徒理解力									

「授業観察のチェックリスト」を参考にし、本時の授業で大切にしたい点や授業者の実態に応じた項目を作成する。

		ない子どもには、もう少し寄り添って適切な助言をしてほしい。
指導力・統率力	□ねらいに沿った発問が計画的にされている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の作業的活動のねらいは既習事項の確認と合同の意味の理解である。しかし、直接ねらいにつながらない発問も多かった。 ・図形ごとの性質を整理した板書ができていた。
	□板書が分かりやすく、計画的にされている。	
その他	□ICTを効果的に活用している。	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を使って、図形の移動や回転、重なり等全体に伝えることは有効であった。今後は、子どもの思考を広げていきたい場面でも活用してほしい。

授業観察の視点をもとに、管理職のコメントを記入するが、すべてを記入しなくてもよい。

このシートの作成にあたっては、授業前に授業者と授業観察者である管理職とで授業の中での工夫や授業改善のポイントなどを十分に話し合い、「本時の授業で大切にしたい点」を記入する。その際、学校教育目標や教職員評価システムにおける「自己目標評価シート（学習指導の自己目標・目標達成のための手立て）」等が反映されることが望ましい。次に、管理職が授業の4つの要素から「授業観察の視点」を表IV「授業観察のチェックリスト（例）」を参考に、授業者とともに記入する。そして、実際の授業観察の記録を「授業観察の視点」に沿って記入し、授業後に協議していく。このような流れで授業観察の視点を明確にし授業者に指導・助言していくことで、一方的な押しつけの指導・助言ではない授業者自身の省察を深める授業観察及び指導・助言になると考える。

V 研究のまとめ

本研究は、島根県教育センターで作成した「授業改善に向けた教育センターの支援の在り方～経験年数に応じた授業力に係る研修を通して～」(平成24年度)を受けて、個々の教員の授業を改善していくために大きな役割を担う管理職による授業観察後の指導・助言の一助となることを目指した。

今年度島根県教育センターでは、「授業改善に向けた教育センターの支援の在り方～「授業づくり研修」での省察を授業改善につなげるために～」の研究を進めている。この研究では、授業力向上のための「省察を通しての自己課題化」を支えるものとして、管理職による適切な指導・助言や、教職員相互の理解や個の研修課題の共有化に基づくOJTをあげている。

「授業力の構成要素とその解釈」については前述の平成24年度の研究を活用し、新任管理職研修の機会を通して授業観察の視点について考察を深めることができた。校種や学校規模によって授業観察の視点も様々であり、当初目指していた島根県のスタンダードとなる授業観察チェック

リスト作成はできなかった。しかし、授業観察の視点は、学校によって違いがあるのが当然であり、個々に応じて変化するものである。本研究で授業観察チェックリストの例示をあげることが、各校の管理職が自身のこれまでの授業観察を振り返るきっかけとなり、所属教職員へのより適切な指導・助言につながることを願っている。

最後に、本研究を実施するにあたり協力いただいた他県教育センターの皆様、聞き取り調査に協力いただいた県内管理職の皆様、新任管理職研修で授業観察チェックリストを作成していただいた皆様に、心から感謝の念を表したい。

なお、この研究は、企画・研修スタッフ共同研究として行い、執筆は、石原清、下岡光子、客野智、熊谷和夫、兼折泰章が行った。

【参考文献】

- ・島根県教育委員会『島根県教育ビジョン21～ふるさとを愛し、未来を切り拓く子どもを育む～』
(平成16年3月26日策定、平成24年3月26日改訂)
- ・工藤文三編『改訂 校長・教頭の授業観察・面談ハンドブック』(平成20年、(株)教育開発研究所)
- ・埼玉県立総合教育センター『学力向上BOOKLET「授業力自己診断シート」で授業力の向上を!』
(平成25年3月、埼玉県立総合教育センター)
- ・島根県教育委員会「評価システム実施の手引き(評価者用)」(平成18年3月策定、平成21年3月改訂)
- ・神奈川県立総合教育センター授業改善プロジェクトチーム
「授業改善プロジェクト～より良い授業づくりを目指す取組み～」(平成24年、神奈川県立総合教育センター研究集録)
- ・大阪府教育センター「高等学校の授業評価に関する研究～高等学校授業改善に向けた授業評価の在り方～」
(平成25年、大阪府教育センター研究報告収録)